

## 執 筆 規 定

1. 異文化コミュニケーション、コミュニケーションに関わる研究をする方は自由に投稿できます。
2. 提出される論文、研究ノート、文献研究、実践報告等の内容及び文体は学術誌として相応しいもので、他誌に未掲載かつ掲載予定なしのものに限ります。
3. 投稿された原稿を掲載するか否かは編集委員会で判断します。また、書き直しをお願いすることがあります。
4. 原稿は採否に関わらず原則としてお返ししません。
5. 原稿は原則として和文とします。
6. 論文原稿の長さは原則として 400 字詰め原稿用紙 30 枚分とします。ただし、研究ノート、文献研究、実践報告等の場合は 20 枚分とします。長すぎる場合は書き直しをお願いすることがあります。
7. 原稿提出期限は 10 月 31 日とします。
8. 原稿には、200 語程度の英文要旨とキーワード 3～5 語(日本語)を添えてください。
9. 原稿には英文題名をつけてください。
10. 注は本文中に付した番号の順に、本文の次に一括し、参考文献は、最初に和文献(著者名五十音順)、次に欧文文献(著者名アルファベット順、APA スタイル (American Psychological Association, 4th ed., 1998) に準ずる)の順に示してください。(体裁は、「引用・参考文献表記法」を参照してください。)
11. 原稿はワードないしテキスト形式の添付ファイルとして email でお送りください。ただし、email をお持ちでない方はオリジナル原稿、フロッピー・ディスクとともにコピー 3 部提出して下さい。
12. 校正は初稿に限り執筆者が行います。この際の加筆・訂正は必ず植字上の誤りに関するもののみとし、内容に関する加筆・訂正は認めません。また、再校以降は編集委員に一任していただきます。
13. 抜刷は 30 部まで無料で進呈しますが、これを超過する部数については実費をいただきます。
14. 原稿に関するお問い合わせ、及び原稿の提出先は下記宛にお願いします。

神田外語大学

異文化コミュニケーション研究所

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1

tel/fax: 043-273-2324

email: icci@kanda.kuis.ac.jp

## 引用・参考文献表記法

A) 文中の引用は以下のようにする。

- ・和書—(山崎 1997、25 頁) / (ベイトソン・ロイシュ 1998)
- ・洋書—(Gurman, 1989, p. 34) / (Strunk & White, 1979)

B) 参考文献は文末に一括して下記のように記載する。

(1) 和書単行本

和辻哲郎(1935) 『風土』岩波書店、1 頁。

(2) 和書編著書に収録された論文

松本耿郎(1989) 「言葉・存在・認識」黒田壽郎 編『地域研究の方法と中東学』(111-113 頁) 三修社。

(3) 和文論文

神山四郎(1989) 「福沢諭吉の西洋理解」『異文化コミュニケーション研究』1 号、20-21 頁。

(4) 翻訳書

ホール、E. T. (國弘正雄 訳)(1966) 『沈黙のことば』南雲堂。

(5) 洋書単行本

Strunk, W., Jr., & White, E. B. (1979). *The elements of style* (3rd ed.). New York: Macmillan.

(6) 洋書編著書に収録された論文

Gurman, A. S., & Kniskern, D. P. (1981). Family therapy outcome research: Knowns and unknowns. In A. S. Gurman & D. P. Kniskern (Eds.), *Handbook of family therapy* (pp. 742-775). New York: Brunner/Mazel.

(7) 欧文論文

Paivio, A. (1975). Perceptual comparisons through the mind's eye. *Memory & Cognition*, 3, 635-647.

(8) 著者・編者が複数の場合

佐伯彰一・芳賀徹 編(1987) 『外国人による日本論の名著』中央公論社。

古田暁 監修、石井敏・岡部朗一・久米昭元(1987) 『異文化コミュニケーション』有斐閣。

ベイトソン、G. ・ロイシュ、J. (佐藤悦子・ボスバーグ、R. 訳)(1995) 『精神のコミュニケーション』新思索社。

### 執筆者

- Ernest Gordon BORMANN (Professor Emeritus, University of Minnesota, Rhetorical Criticism and Theory)
- 倉田 恵介 (北海道武蔵女子短期大学、元教授、コミュニケーション論、レトリック理論)
- Arifin BEY (Professor Emeritus, Kanda University of International Studies, International Relations with Particular Emphasis on Cultures, Japanese studies in General)
- 荻原稚佳子 (早稲田大学国際教育センター、非常勤講師、日本語教育、対人コミュニケーション)
- 手塚千鶴子 (慶應義塾大学国際センター、助教授、多文化間カウンセリング、多文化間心理学)
- 中井 富紀 (松山大学、非常勤講師、応用言語学)
- 小松 照幸 (名古屋学院大学、助教授、比較文化、社会人類学)

### Authors

- Ernest Gordon BORMANN (Professor Emeritus, University of Minnesota, Rhetorical Criticism and Theory)
- KURATA Keisuke (Hokkaido Musashi Women's Junior College, Former Professor, Communication Studies, Rhetorical Theory)
- Arifin BEY (Professor Emeritus, Kanda University of International Studies, International Relations with Particular Emphasis on Cultures, Japanese Studies in General)
- OGIWARA Chikako (Center for International Education, Waseda University, Lecturer, Teaching Japanese as a Foreign Language, Interpersonal Communication)
- TEZUKA Chizuko (International Center, Keio University, Associate Professor, Cross Cultural Counseling, Cross Cultural Psychology)
- NAKAI Fuki (Matsuyama University, Lecturer, Applied English Linguistics)
- KOMATSU Teruyuki (Nagoya Gakuin University, Associate Professor, Comparative Culture, Social Anthropology)

### **編集委員会**

石 井 敏 (獨協大学教授)  
岡部 朗一 (南山大学教授)  
奥島 美夏 (異文化コミュニケーション研究所講師)  
久米 昭元 (立教大学教授)  
遠 山 淳 (桃山学院大学教授)  
榊本 智子 (異文化コミュニケーション研究所講師)  
和 田 純 (神田外語大学教授、異文化コミュニケーション研究所所長)

### **Editorial Board**

ISHII Satoshi	(Professor, Dokkyo University)
OKABE Roichi	(Professor, Nanzan University)
OKUSHIMA Mika	(Assistant Professor, Intercultural Communication Institute)
KUME Teruyuki	(Professor, Rikkyo University)
TOYAMA Jun	(Professor, St. Andrew's University)
MASUMOTO Tomoko	(Assistant Professor, Intercultural Communication Institute)
WADA Jun	(Professor, Kanda University of International Studies, Director, Intercultural Communication Institute)

短信:

- 昨年の夏期セミナーで反響を呼びました河合隼雄先生の「基調講演」および河合先生と石井米雄先生との「対談」が、『日本人とグローバリゼーション』（講談社+α新書）として刊行されます。4月20日発売で、定価780円です。極めて示唆に富む読み物となっておりますので、是非ご講読ください。
- 本紀要の巻末に案内を掲載しましたように、本年6月をめどに「多文化関係学会」が設立される見込みとなりました。これは、当研究所の夏期セミナー参加者を中心に構想が温められてきたもので、いよいよ本格的に学会として発足する運びとなったものです。この学会の発足に伴い、当研究所のあり方や本紀要のあり方なども今後見直していくことになりそうです。
- 本年4月より、当研究所の副所長にギブソン松井佳子(神田外語大学教授)が就任します。
- 2002年度の夏期セミナーは8月30日―9月1日にブリティッシュ・ヒルズで開催予定です。順次、詳細をお知らせしますので、電子メールのメーリングリストにご登録いただくか、当研究所のホームページでご覧下さい。

2001 年度異文化コミュニケーション研究所スタッフ

所長	和田 純
専任研究員	榎本 智子
	奥島 美夏
研究員	児玉 顕栄
運営スタッフ	藤本 益美
	伊藤 和江
	中 臺 忍
表紙デザイン	猪瀬 悦美

異文化コミュニケーション研究 第14号

2002年3月 発行

発行所 神田外語大学

異文化コミュニケーション研究所

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1

tel/fax: 043 (273) 2324

email: icci@kanda.kuis.ac.jp

印刷所 研究社印刷株式会社